

報道関係各位

小腸用カプセル内視鏡 PillCam® SB はクローン病を含む消化管疾患の 早期診断と治療を可能にすることが3件の試験で示される

ギブン・イメージング社 (NASDAQ: GIVN、イスラエル・ヨクネアム) は本日、クローン病が疑われる患者を含む消化管疾患の患者の管理に対して、PillCam® SB カプセル内視鏡検査が有効であったことを示した3件の新しい試験結果を発表しました。これらの試験結果は、11月21日から25日にロンドンで開催されたGASTRO 2009の会議で発表されました。ギブン・イメージング社はこの会議においてブース番号83に製品出展を行いました。

英国シェフィールドにある王立ハラムシャー病院消化器病科の Mark E. McAlindon 博士を中心に英国で実施された950人の患者を対象とした単一施設試験 (P2106) としては最大のカプセル内視鏡検査症例の解析において、カプセル内視鏡検査の診断率と患者管理に及ぼす効果が検討されました。この試験の結果、PillCam® SB は全患者の27%、および検査後にクローン病と診断された患者の79%に対して治療方法の変更を促したことが示されました。

ポルトガル・ギマランイスにあるアルトアベニューホスピタルセンターの Jorge Cotter 医師は、ポスター発表 (P2105) の中で、PillCam® SB の使用により、クローン病の診断・分類が可能になると結論付けています。この研究においても、カプセル内視鏡検査の所見に基づいて、患者の22%に対して治療戦略を変更したと報告しています。

さらに、英国サマセットにあるマズグローヴパーク病院の顧問消化器内科医の Paul Thomas 医師のポスター発表 (P1471) には、地域病院において、PillCam® SB を使用すると、原因不明の消化管出血 (OGIB) 患者の58%で出血源を特定することができ、それに応じて患者の3分の1以上が治療を受けたと報告しています。これらの試験結果は、大規模な第三次紹介センターで観察された結果を反映するものです。Thomas 医師らは、通常のカプセル内視鏡検査は予後経過が良好になると結論付けています。

「日々の診療にワイヤレスカプセル内視鏡検査を広く適用すべきだとするエビデンスも数多く集まっています。ポイント・オブ・ケア検査による早期の診断と管理は患者の予後を改善することができます」と、Thomas 医師は述べています。

クローン病について

クローン病とは、小腸の内側の粘膜が炎症して起こる慢性疾患です。通常、回腸と呼ばれる小腸の下部に発症しますが、その他消化管のいたるところで発症します。症状としては、下痢、腹痛、体重減少、直腸出血があります。クローン病患者の約50%が小腸の最後の部位 (回腸末端部) と盲腸に病変が見られます。この部位は回盲部とも呼ばれています。また別の症例では、結腸のみ、小腸のみ (十二指腸、空腸、回腸)、胃、食道に見られる場合もあります。(1) 米国では約50万人がクローン病に罹患し、その約20%が炎症性腸疾患 (IBD) と直接関係しています。(2) 男性、女性の性差はなく発症します。発症理由は分かっていますが、免疫システムがウイルスや細菌に過剰反応して炎症を起すというのが一般的に考えられています。(3) 炎症および腸管異常の検査には、上部消化管内視鏡検査、上部消化管 X 線検査、大腸内視鏡検査がよく行われています。治療法としては、重症度に応じて、栄養補助剤や薬物の投与、または手術があります。現在のところ、この疾患の根治法はありません。

PillCam® SB について

PillCam® SB および次世代の PillCam® SB 2 カプセル内視鏡は、サイズが 11 mm×26 mm、重さは 4g 以下で、撮像カメラと光源を内蔵し、毎秒 2 枚の画像を転送して 1 回の検査で 5 万枚以上もの画像を撮影します。PillCam® SB カプセル内視鏡は、2001 年に米国食品医薬品局 (FDA) より認可を得て、その臨床適応は 1,100 件を超える権威ある医学専門誌での論文によって支持されています。PillCam® SB は非常に精度が高く、患者にやさしい小腸画像診断・モニタリング・ツールであり、小腸のさまざまな疾患の評価に使用されています。

ギブン・イメージング社について

ギブン・イメージング社は、2001 年から、PillCam®プラットフォームのコンセプトを基盤とした革新的で患者様に優しい先進的な消化管診断ツールを提供しています。PillCam® SB は小腸、PillCam® ESO は食道、PillCam® COLON は大腸の自然のままの消化管画像を提供します。PillCam®カプセル内視鏡は、患者様が嚥下するカプセル型の小型ビデオカメラです。ギブン・イメージング社では、他にもカプセル型製品を販売しています。PillCam®カプセル内視鏡が消化管を通過できるかどうか、開通性をみるための AGILE、胃食道逆流症 (GERD) の pH 検査に使用する医療機器としては、カテーテルを使用しない唯一のワイヤレス 48 時間 pH 検査システムの Bravo があります。ギブン・イメージング社の製品は、最先端のワイヤレス通信技術とソフトウェアを使用することにより、より正確な消化管疾患の診断を可能とし、患者様には、より適切な治療を実現することができます。全てのギブン・イメージング社の製品は低侵襲性で、かつ無拘束であり、患者様は検査中も日常生活を送ることが可能です。ギブン・イメージング社の本社、工場、研究開発施設は、イスラエルのヨクネアムにあり、アメリカ、ドイツ、フランス、日本、オーストラリア、シンガポールに子会社があります。さらに詳しい情報が知りたい方はこちらをご覧ください。 <http://www.givenimaging.com>。

日本法人 ギブン・イメージング株式会社について

ギブン・イメージング株式会社 (東京都千代田区、社長: 笈川義徳) は、世界で初めてカプセル内視鏡を開発し、現在世界のカプセル内視鏡市場において豊富な経験を持つギブン・イメージング社 (Given Imaging Ltd. 2001 年 NASDAQ 上場) の日本法人であり、日本におけるカプセル内視鏡の製造販売会社です。

<ホームページ>

<http://www.givenimaging.co.jp>

注) 日本では、PillCam® SB および PillCam® SB 2 カプセル内視鏡 (小腸用) が承認されています。大腸用の PillCam® COLON と PillCam® COLON 2、食道用の PillCam® ESO 2 はまだ承認されていません。

<脚注>

- (1) qurljoe.bu.edu/cduchome.html Inflammatory Bowel Disease Frequently Asked Questions
- (2) Crohn's and Colitis Foundation of America (ccfa.org)
- (3) National Institute of Diabetes and Digestive and Kidney Diseases (niddk.nih.gov)